

地質調査所研究資料集

この資料集は、地質調査所資料室（電話 (0298) 54-3605）で閲覧できます。

地質調査所研究資料集 No.162

渡部芳夫・岩森 光 (1991)

γ 線スペクトル解析プログラム “NACP”. 66 p., 23 fig., 2 tab.

内容紹介

中性子線放射化分析のための γ 線スペクトル解析システム “NACP” について報告する。本システムは、4096 チャンネルにアナログ・デジタル変換されたスペクトルデータを入力することにより、ごく普通のパーソナルコンピューター上でスペクトル解析及び定量計算を行う BASIC プログラムである。本システムの特徴は、ピークの自動検索だけでなく、ピーク及びベースライン曲線の関数スムージングも同時に行える点である。細かい条件を設定しての関数フィッティングだけでなく、自動処理が不適当なピークについては、コーベル法による手動計算も行える。本報告には、システムの実行ファイルと共に全ソースファイルが含まれるため、必要に応じた変更・改良を加えての利用が可能である。

地質調査所海外研究資料集 No.49

アルフォン E.・バルマセーダ N. (1991)

ホンデュラス国の4つの鉱山に関する流体包有物研究。27 p., 10 fig., 1 tab., 5 pl. (1990)

内容紹介

JICA ミニプロジェクト「休廃止鉱山における鉱物ポテンシャルの地質学的評価」の一環として、ホンデュラス国の鉱床地域から採取された試料につき、流体包有物の研究を行った。9 試料の石英中に含まれる流体包有物 692 個について、リンカム TH600 型加熱台及び USGS 型加熱冷却台を用いてマイクロサーモメトリーを行った結果、Agua Fria からの試料で最も塩濃度が高く、Las Animas からの試料で最も均質化温度が低かった。鉱石鉱物としては、黄鉄鉱、方鉛鉱、斑銅鉱、黄銅鉱、四面銅鉱、自然金が確認された。今回検鏡した試料に関する限り、自然金は Agua Fria の試料からのみ見出された。流体包有物のマイクロサーモメトリーの結果から見ると、Agua Fria における鉱化作用には、少なくとも2つのステージがあり、金の晶出は低温で低塩濃度の流体が関与した後期の熱水活動と関連するものと推定される。